



第12回学術集会・総会報告

第12回学術集会を終えて

日本赤十字広島看護大学 平澤 久一

第12回学術集会は6月1日、2日にかけて瀬戸内海と宮島が一望できる日本赤十字広島看護大学で開催された。これまでとはただ開催場所に身を運ぶだけでよかったのが、今回はその逆になっていざやってみるとこれまでの方々のご苦労と難しさが分かり、貴重な体験になった。参加者が満足できたのか、運営はスムーズだったのか、今考えるとあれもこれもと不手際ばかりが思い出される。9グループのワークショップ、55題の演題発表、そしてシンポジウムと、遠くは北海道から沖縄まで多くの参加者に支えられて無事終わることができた、そんな思いでホッとしているのが実感である。同時に、こうした大きな学術集会を多くの人達と共有出来たことに感謝したい。

地方での開催は、福島での第10回学術集会に続き2回目である。地方での開催は、どうしても交通の便がネックになるが、今回は広島という遠隔地での開催であり交通費や時間を考える

と果たしてどうなるものかと当初懸念されたのも本音であった。今回は、「精神病院文化と看護者のかかわり」をメインテーマに、シンポジウムが「精神科看護の常識と非常識」と臨床に視点を置いた学術集会にすることに焦点を当てたものであった。集会全体を通して、果たしてメインテーマにそったものになったのだろうかなど考えたのも事実である。学会を企画する当事者は、ワークショップや演題発表などに直接参加できず直に肌で感じられないために逆にその感が強くなるのだろう。

今回は、臨床の人達からの問い合わせが多く見られた。日精看広島県支部の協力を得て運営したことが臨床からの参加を促した要因となったもので、これまでにはない特徴だったと言える。要するに、開催地だけの問題ではなく、その内容と方法が問われるのではないだろうか。

理事・講師、実行委員、学生ボランティアなどを除き518名

の参加者があつた。参加者の内訳は、不明者を除き会員が約45%、非会員が約52%、うち当日参加者が約27%だった。一方、臨床からの参加者が約60%、教員・学生が約40%であった。また地域別では、近畿以西が約63%（多い順では、関東の約22%、近畿・中国がそれぞれ約20%、九州が約13%、四国が約5%）にも及び地方開催の特徴が出たものと思われる。

学会発表を終えて

駒木野病院 香月 富士日

2002年6月1日、2日の両日、第12回日本精神保健学会学術集会在日本赤十字広島看護大学において開催されました。そこで、私は「看護師が『振り回されていると感じる』患者の理解」を一般演題として発表させていただきました。

発表の内容を簡単に説明します。私たちは精神科の病棟で日々看護するにあたり、患者様に振り回されていると感じることが多くあります。私たちは、このような看護師が『振り回されている』と感じる患者様と看護師間の相互作用を理解し、よりよい看護アプローチを考えることを研究目的とし、本研究を進めていきました。

結果として、看護師が『振り回されていると感じる』患者様と看護師の間には、いくつもの悪循環の構造があることがわかりました。それらを精神力動論、オレム看護理論、対象関係論などを用いて、分析、考察しております。

発表形式は、発表15分、討議15分であり、討議の時間が十分に取ってある学会だなと感じました。しかし、フロアからは15分の時間いっぱいまで、さまざまな内容の質問やアドバイスを頂き、議論を深めることが出来ました。質問の内容をいくつかご紹介いたします。

「私もこの研究のような、看護師を振りまわす患者様をこれから受け持っていくつもりですが、どういう人が振り回されや

また、近隣からの問い合わせが非常に多く、連日FAXが送られてくるなど関心の高さにびっくりさせられた。そのほとんどが臨床の人達からだった。開催地域周辺からの参加状況やその周辺への学術的影響を考えると、今後も地方での開催は是非続けてほしいものである。

すいでしょうか。何か傾向はありますか?」「発表の中に、精神力動的に患者を観ていく訓練が必要とありましたが、具体的にはどうのことですか?」「患者様に実際に看護師の抱いた陰性感情を伝えていくことで、何か変化はありましたか?」などがありました。

また、休憩時間には、座長をされていた東京慈恵医科大学の出口禎子先生からは、「大学の先生ではなく、現場にいる看護師からこのような研究が出ることは大変喜ばしいことです」と、励ましの言葉を頂きありがたく思いました。また、学会を聞きに来ていた、岡山看護大学の学生さんは「実習で患者様に振り回されないようにするにはどうしたらいいですか」とかわいい質問をしてくれました。

今回の発表には興味を示して下さった方も多く、そしていずれの方もあたたかいご意見をくださいました。発表をしたことで、自分たちだけの見方ではなく、いろいろな人の見方を知ることが出来ました。また、何よりも、精神科看護師なら誰でも同じような経験をしており、同じような思いをしているのだなあということがわかりました。そのことがわかっただけでも、精神科の看護師として元気が湧いてきました。今回の発表を通して、大変貴重な経験をしたと思っております。

ワークショップで俳優になりたかった参加者達

杏林大学 鈴木 英子

広島日本赤十字看護大学で日本精神保健看護学会学術集会在開かれた。初日の午後、私は、「看護師が行う地域リハビリテーション」と題したワークショップに参加した。

このワークショップは、まず、スタッフと利用者からなる共同作業所「ひあしんす城北」の説明から始まった。この作業所は基礎体力の向上・生活リズムの確立・自立生活技能・対人関係技術を高めること等を目的とし、CDのパッケージなどの軽作業を主としたプログラムに加え演劇を取り入れていた。

そして昨年5周年記念パーティで「サウンドオブミュージック」を発表したとのことであった。

次に、ワークショップ参加者全員が演劇のレッスンを受けることとなった。

はじめに、発声練習を行った。「ひあしんす城北」のスタッフ＝演出家の「声を出そう。日本語を大切に」との指導で、「国定忠治 赤城山」をワークショップ参加者全員で朗読した。――忠治「赤城の山も今宵限り、生まれ故郷の国定村や、縄張

りをすて、国を捨て、可愛い……」と大きな声で口にするにあちこちで照れ笑いが聞こえた。つづいて、「ひあしんす城北」のパーティで利用者が実際に演じたサウンドオブミュージックのビデオを見た。そのあと同じ利用者が同じ場面の同じ役を実際にワークショップの中で演じた。利用者達は、生き生きしてとても楽しそうであった。そのあと、会場の参加者もやってみましょう、とスタッフ及び利用者からの呼びかけがあり、会場から数人の人が選ばれた。選ばれた人はおどろき、「私ですか?」などと照れて、しびしびステージへ……。ところが、その方が、名女優のような演技をされた。そしてワークショップ参加者から拍手喝采を浴びた。次にステージに出た方は、「老眼だから、できないわ」といいながらも、眼鏡がないので、台本が読めないところを、利用者の指導を受けて最後まで演じきった。次は、実際に自分の働いている施設で演劇を取り入れているという人が選ばれた。サウンドオブミュージックの演技指導は一次中断し、その方が普段やっている演劇の中か

ら、水戸黄門様があらわれ、助さん、格さんまで登場した。これを見ているうちに、私もすっかり、女優になりたくなってしまった。はじめ、選ばれるのが恥ずかしく、下を向いていた私であったが、利用者に指導を受け演じてみたいと思った。利用者に近づきたかった。周囲の人も、照れる人はもう一人もいなくなり、ワークショップ全体が笑いの渦の中で一体化した。

ひととおりの演技指導の後、作業所に演劇を取り入れたことの有効性について話し合われた。利用者から以下の意見が出た。

- ・演劇というひとつのもの、その同じ方向をみんなて向いて、打ち込んで行く中では、病気は関係なかった。
- ・他者や自分を見つけることができた。仲良くなったというよりもその人を知った。
- ・一緒にやること、笑うこと、すぐうち解けることが大好きだ。
- ・劇中の主人公の気持ちを考えて演じていく喜び、ひとつのことをみんなとの一体感の中で感じる喜びは、最高であった。

私は、このワークショップに参加できて新鮮な楽しさを感じ

た。とにかくやってみること、参加することの大切さを学んだ。そして、地域での看護師の役割を考えた。

最後に、昨年は、殆ど口を利くことがなかったという利用者が、以下のような事を話してくれた。この話をとおして、私は、彼女の世界を感じ、さらに現在の「ひあしんす城北」の中での彼女の世界も感じることができた。私にとっては極めて貴重な体験であった。

私の心に深く刻み込まれた彼女の言葉

バス停でバスを待つ時、ただ隣に座っただけの人が自分の恋愛対象であると思いきなり、現実社会から離脱し、空想の世界の中で浦島太郎のように地に足のつかない状態だった。そんな自分が、地に足がつけそうになったとき、地上に暖かい受け皿が必要だった。それは、家族でも友人であっても良いのであるが、受け皿がなく、誰もいないと、また龍宮城に戻るしかない。自分にとってはその受け皿が「ひあしんす城北」であった。それは、最高に暖かい受け皿であった。

教育活動委員会主催ワークショップの報告

聖路加看護大学 羽山 由実子

昨年度は、精神障害者の人権保障について3回ワークショップを行った。新潟、仙台に続いて3回目は、筑波大学医療技術短期大学の上野恭子先生の企画で、3月23日、つくば国際会議場にて、「精神障害者の人権保障を考えるー地域と家族のつながりを大切にしたい看護ケア」というテーマであった。年度末とあって参加者は30名余りと少なかつたものの、2名の当事者、家族会メンバー、精神保健福祉士らも集まり、みぞれまじりの寒い日であったが討議は白熱した。

はじめに問題提起として、上野恭子氏から地方都市における精神科医療のいまだ閉鎖的な現状と退院に至るまでの困難さ、看護の立場から地域ケアへの有効な橋渡しを模索していくことが重要であり、人権を守るとは、普通に当たり前の暮らしを保障することではないか、という発言があった。次に、つくば地家族会の草薙進郎氏から家族が直面する問題について、とくに今後の課題も含めて看護職への期待が述べられた。その後、東京における地域ケア活動の例として、訪問看護や地域生活支援センターでの活動をビデオにした「地域ケアの実際」(羽山、上野ら作成)を見て、障害者の人権についてのコメントを羽山が行った。休憩をはさんで後半のフリーディスカッションでは、つくばライフサポートの伊藤勝江氏 (PSW) から詳細な活動レポートがあり、地域の立場から病院との連携を求めているがなかなか進展しないこと、看護職にもぜひ一緒になって退院後の支援を考えてもらいたいという発言があった。さらに、同サービスを活用している入院歴29年と16年の2名の女性から率直

な入院体験の話し、その後のアパート生活や授産施設を介して就労にいたるまでの話があり、参加者との応答が途切れることなく続いた。終わりに、参加者一同から、定期的にこうした場を開いて、各々の立場からそれぞれの体験をオープンにすることが、よい看護ケアにつながるであろうということで閉会となった。つくばは、家族会も地域もかなり活発に活動しており、看護職の課題が大きくあるように思われた。

今年度は、ワークショップは2回予定しており、1回目は東京で、8月30日(金)に聖路加看護大学で、「フィンランドおよび日本における精神保健従事者の人権擁護のあり方と看護者の役割」というテーマで行われる。講師は、第9回学術集会で基調講演をしたマリッタ・ヴェリメッキ氏および東京精神医療人権センターの小林信子氏の両名である。このニュースレターが発行される頃には終了しているが、昨年3回のワークショップのまとめと、看護者のアドボカシー役割を明らかにしていきたいと考えている。

2回目は、瀧川薫と岩瀬信夫の両委員が11月末頃に関西方面で開催を企画する予定である。次回の企画につきましては、以下にお問い合わせ下さい。

問い合わせ先:

滋賀医科大学医学部看護学科 臨床看護学講座 瀧川 薫

Tel 077-548-2084(直) Fax 077-548-2466

メールアドレス takigawa@belle.shiga-med.ac.jp

INFORMATION

2003年5月14~16日に、フィンランドのタンペレ市ホールで、国際精神保健看護学会が開催される(主催はタンペレ看護協会他)。とくに14日のサテライト・シンポジウムは、「精神障害者の人権とアドボカシー」をメインテーマに、マリッタ・ヴェリメッキ氏、田中美恵子氏、斎藤泰子氏、羽山ら、また韓国ヨンセイ大学看護学部からもスピーカーが集まり、会場もビルカンマ精神病院の大ホールを予定して、北欧、ヨーロッパ、アジアから、大いに論ずる予定である。参加希望者は羽山 (Fax:03-5550-2268、e-mail: hayama@slcn.ac.jp) までご連絡ください。

訃報 中川幸子さん

本学会の理事、中川幸子さん（千葉県立衛生短期大学助教）が、6月19日深夜、日付が20日に変わる頃、北海道から駆けつけたご家族に見守られるなか、入院先の虎ノ門病院で逝去されました。

中川さんは本学会設立当時からの関係者の1人であり、現在は編集委員会担当理事として主にニュース・レターの編集・配布に関わっておられました。今回のニュース・レターのスタイル一新も、彼女の力によるものでした。

42歳という若さで、まだまだこれからというときに体調を崩され、5月28日に入院なさってから、まだ1ヶ月も経たないうちの急変でした。本人もこのようなことになるとは思っていませんでした。そのため入院すらも知らされなかった友人が多かったのですが、20日には流山市のご自宅でお別れ会が催され、大学・学会関係者や教え子たち200人近

くがお別れに集まりました。23日には早くに亡くされた母堂の眠る北海道札幌市の慧林寺で告別式が営まれましたが、偶然にも中川さんが理事として熱心に関わっていた日本精神科看護管理研究会が札幌で開催されていたため、それに出席していた大勢の友人知人が参列することができました。

中川さんの死は本学会にとっても大きな損失ですが、個人的にも10年余にわたって「ナースのためのグループ研究会」で一緒に、スイスへの研修旅行などもともにした仲間として、その余りにも突然の死に無念の思いがしてなりません。けれども、一番無念だったのは彼女自身ではないでしょうか。残された者としては、彼女の思いを受け継いでいかなければならないと思っています。心よりご冥福をお祈りいたします。

日本精神保健看護学会理事長 武井麻子

編集委員会からのお知らせ

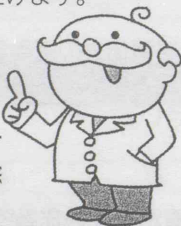
—学会誌第12巻投稿〆切—

日本精神保健看護学会第12巻への投稿〆切は平成14年9月10日（消印有効）となっております。今号より、投稿宛て先が(財)日本学会事務センター内に変更になりました。その他、原稿種類、原稿枚数、引用文献の記載様式等につきましても変更しておりますので、学会誌第11巻の投稿規定をご確認のうえ、奮ってご投稿いただけますようお願いいたします。

また学会誌に掲載された論文等の著作権は本学会に帰属させていただくことが、先日の総会で承認されました。会員の皆様のご理解を賜りたくお知らせ申し上げます。

投稿宛て先：

〒113-8632 東京都文京区駒込5-16-9
(財)日本学会事務センター
内・日本精神保健看護学会



第13回 日本精神保健看護学会総会・学術集会のお知らせ

メインテーマ：「精神科看護の経験」

第13回日本精神保健看護学会総会・学術集会は、以下のように開催される予定です。詳細につきましては、12月発行予定の次号ニュースレター(36号)でお知らせ致します。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

学術集会大会長 武井 麻子（日本赤十字看護大学）

日時 2003年5月31日(土)、6月1日(日)

場所 都市センターホテル(東京都千代田区平河町)

お詫び—第12回学術集会企画委員会より—

学術集会当日、学会誌の販売に一部手違いがありましたのでお詫び申し上げます。不明な点がございましたら、第12回学術集会事務局宛にご連絡下さい。

連絡先：〒738-0052

広島県廿日市市阿品台東1番2号 日本赤十字広島看護大学
日本精神保健看護学会第12回学術集会事務局
Tel&Fax 0829 (20) 2863

学会へのお問い合わせについて

学会への入会手続き、学会誌のバックナンバーのお求め等に関するお問い合わせ、住所や所属の変更につきましても直接、下記までご連絡をお願いいたします。

〒113-8632 東京都文京区駒込5-16-9
(財)日本学会事務センター 日本精神保健看護学会事務所
Tel:03(5814)5810 Fax:03(5814)5825

The Japan Academy of
Psychiatric and
Mental Health Nursing
*News
Letter*

編集後記

本学会設立準備委員会のときから、蔭に日向に学会を支える仕事をしていらした中川先生、ニュースレターの刷新にも力を注いでくださいました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(田中)

中川先生は編集委員として一緒に仕事をさせていただく中でも、いつもおおらかに周囲をあたたくして下さいました。心からご冥福をお祈り申し上げます。(濱田)

編集委員

田中美恵子 若狭 紅子
濱田 由紀 江波戸和子

第12回日本精神保健看護学会総会議事録

- 日時：平成14年6月2日（日） 13:30~14:00
- 場所：日本赤十字広島看護大学
- 議長：阿保 順子氏
- 進行：川口 優子氏

正会員数624名に対し、出席者62名、委任状147通、計209名を持って、総会は成立したことが宣言された。

1. 開会 川口氏
2. 理事長挨拶 武井理事
3. 議長選出

第12回日本精神保健看護学会総会議長として阿保順子氏を選出。

4. 報告 武井理事

1) 平成13年度事業報告

(1) 理事会活動報告

理事会は、平成13年8月から14年6月まで、日本赤十字看護大学、日本赤十字広島看護大学にて、計5回開催し、学術集会の企画、各委員会活動、入会審査、今後の学会活動等についての検討を行った。

(2) 各委員会活動報告

①企画委員会は、第12回学術集会・総会の開催、及び学術集会抄録集の作成を行った。

②編集委員会は、ニュースレター第32、33、34号、及び学会誌第11号を発行した。また、第11号より学会誌の価格を1,500円から2,000円とすることになった。

③教育活動委員会は、第1回ワークショップを新潟で、第2回ワークショップを宮城で、第3回ワークショップを茨城にて開催した。

(3) 学会員の動向

平成14年5月24日現在、学会員数は624名である。

(4) 日本学術会議第19期学術研究団体への登録申請を平成14年5月に行った。

以上の報告に対して、質問や意見などなく、承認された。

2) 平成13年度収支決算報告 出口理事

平成13年4月から平成14年3月までの収支決算報告及び別途積立金（特別基金）会計報告が、配布資料をもとに報告された。

3) 会計監査報告 藤野監事

上記収支決算報告に対して、監査の結果、相違ないことが報告された。

以上の報告に対して、質問や意見などなく、承認された。

5. 議事

1) 第1号議案：平成14年度事業計画 武井理事

(1) 第13回日本精神保健看護学会学術集会・総会は平成15年5月31日、6月1日、都市センターホールにて開催する予定である。

(2) 学会誌第12号を平成15年5月15日に発行する予定である。

(3) ニュースレター第35、36、37号を発行する予定である。

(4) ワークショップを平成14年8月頃に東京地方、平成14年11月頃に関西地方で開催する予定である。

(5) 学会員名簿発行を平成14年12月に行う予定である。

(6) 第5期役員選出選挙を平成15年2月に行う予定である。

(7) その他、精神保健従事者団体懇談会への参加を予定している。

以上の報告に対して、質問・意見などなく、承認された。

2) 第2号議案：学会誌掲載論文の著作権について

田中理事

過去に掲載された論文等を含め、学会誌に掲載された論文等の著作権は本学会に帰属するものとし、学会誌・投稿規定に新たに、著作権に関する項を追加する。また本学会は、当該論文等の全部または一部を、本学会が認めたネットワーク媒体、その他の媒体において、任意の言語で掲載、出版（電子出版を含む）できるものとする。以上の報告に対して、質問・意見などなく、承認された。

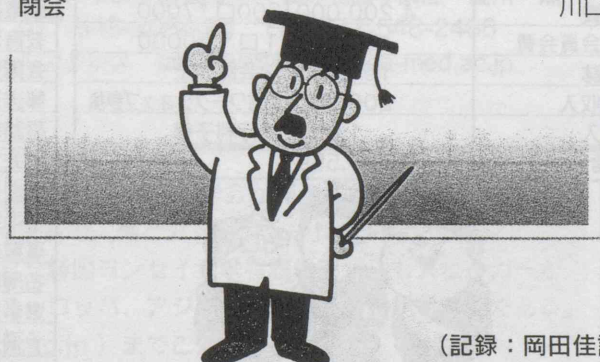
3) 第3号議案：平成14年度収支予算（案） 出口理事

配布資料をもとに説明された。

平成14年度収支予算案に対して、質問・意見などなく、承認された。

6. 閉会

川口氏



（記録：岡田佳詠）

平成13年度 日本精神保健看護学会決算

平成14年3月31日 現在

総収入額	7,188,059
総支出額	5,014,500
残 額	2,173,559

〔収入の部〕

費 目	予算額	決算額	増減額	備 考
平成12年度繰越金	2,357,588	2,357,588	0	
年会費	3,360,000	4,347,000	987,000	621口*7000円
賛助会員会費	50,000	50,000	0	1口*50000円
学会誌	150,000	131,400	-18,600	学会当日売上72000円学会事務センター売上59400円
事業収入	300,000	300,900	900	地方ワークショップ参加費
雑収入	1,000	1,171	171	銀行利息等
収入計	6,218,588	7,188,059	969,471	

〔支出の部〕

費 目	予算額	決算額	増減額	備 考
学会誌印刷費	2,500,000	1,389,255	1,110,745	学会誌及びニュースレター印刷費
編集委員会費	300,000	298,289	1,711	編集委員会会議費等
教育活動委員会費	100,000	100,900	-900	教育活動委員会会議費等
会議費	600,000	537,407	62,593	理事会会議費、交通費等
郵送通信費	30,000	14,050	15,950	庶務・会計郵送通信費
事務経費	50,000	67,574	-17,574	庶務・会計事務経費
学会センター経費	1,300,000	1,174,580	125,420	学会センター業務費、諸経費
人件費	150,000	189,645	-39,645	庶務・会計人件費
学術集会補助費	600,000	541,165	58,835	学術集会開催のための補助金
事業経費	450,000	696,700	-246,700	地方ワークショップ開催費用
予備費	138,588	4,935	133,653	銀行振込み料等
支出計	6,218,588	5,014,500	1,204,088	

平成13年度の決算報告について監査を行い会計帳簿・証書類などを照合調査の結果、上記の通り、相違ないことを認めます。

平成14年 5月 17日

監事 藤野 ヤヨイ (印鑑省略)

平成14年 5月 17日

監事 池田 明子 (印鑑省略)

平成13年度 日本精神保健看護学会決算報告書

別途積立金(学術集会特別基金)会計報告

平成14年 3月31日現在
(平成13年4月1日～14年3月31日)

総収入額	2,738,458
総支出額	0
残額	2,738,458

〔収入の部〕

元本 (第1～4回学術集会繰越金)	1,224,996
第5～11回学術集会繰越金	1,513,462
小計	2,738,458

〔支出の部〕

	0
	0

平成13年度決算報告について監査を行い会計帳簿・証書類等を照合調査の結果、上記の通り、相違ないことを認めます。

平成14年5月17日

監事 藤野 ヤヨイ (印鑑省略)

平成14年5月17日

監事 池田 明子 (印鑑省略)

平成14年度予算案

〔収入の部〕

費 目	予算額	備 考
平成13年度繰越金	2,173,559	
年会費	4,200,000	600口*7000
賛助会員会費	50,000	1口*50000
学会誌	150,000	学会誌売上
事業収入	200,000	地方ワークショップ参加
雑収入	1,000	銀行利子等
収入計	6,774,559	

〔支出の部〕

費 目	予算額	備 考
学会誌印刷費	1,600,000	学会誌及びニュースレター印刷費 3回/年
編集委員会費	300,000	編集委員会会議費等
教育活動委員会費	100,000	教育活動委員会会議費等
会議費	700,000	理事会会議費・交通費等
郵送通信費	30,000	庶務・会計事務経費
事務経費	100,000	コピー代等
学会センター経費	1,300,000	学会センター業務費・諸経費
人件費	200,000	庶務・会計人件費
学術集会補助費	800,000	学術集会開催のための補助金
事業経費	450,000	地方ワークショップ開催費用
名簿印刷費	200,000	
選挙費用	400,000	第5期役員選出選挙費用
予備費	594,559	
支出計	6,774,559	

